



ひるまだより9月号の「酒田だより」でお伝えしましたが、私たちはより良い医療を多くの方に提供する上でデータを分析することの重要性を再確認しています。今号から「From データ」と題して医療におけるデータ、ひるま矯正歯科のデータ、データの活用などを紹介しながらデータから見えてくることを皆さんにわかりやすく紹介します。

EBMとは

さて、皆さんは「EBM」という言葉を聞いたことはありますか？ EBMとは「Evidenced Based Medicine」の頭文字をとったもので、日本語に訳すと「根拠に基づいた医療」となります。根拠に基づい

た医療とは？ それが今回のテーマです。

医学的根拠は？ 経験？ それとも……？

皆さんが医療を受ける時、薬を処方される時など医療行為は医療者が何らかの医学的根拠に基づいて判断し方針を決定します。しかしこの判断の根拠は多くの場合、その医療者のそれまでの経験や必ずしも妥当性が証明されていない権力者の見解に基づいていたり、効果の定かでない薬が使われたりすることがあり、それを改善しなければ適切な医療が安定して患者さんに提供されることはないということが問題視されてEBMという概念が生まれました。

科学的根拠に基づいた最適な判断を！

EBMとは、あやふやな経験や直感に頼らず、科学的 evidence（証拠・根拠）に基づいて最適な医療・治療を選択し、実践するための方法論です。患者さんの診断・予後・治療などに関するデータを、疫学的・生物統計学的手法で解析し、個々の患者さんに最適な臨床判断

を下す方法論・学問である臨床疫学を、臨床問題解決のために再構成した概念です。

簡単に言うと今までは医療者の経験に基づく治療を各医療者がその裁量で行っていたが、今後は世界の研究者が行っている研究結果（数字）にもとづいた確かな証拠がある治療法、治療薬を患者に対して処方していくということを意味します。実際にどういったことかわかりやすくするためにEBMの必要性を決定づけたものの一つである有名な調査研究を次に紹介します。

「心筋梗塞後の抗不整脈薬の使用についてのCAST study」

心筋梗塞の患者は、急性期を過ぎてから突然不整脈になって亡くなる場合があります。そのため心筋梗塞になった患者には、抗不整脈薬を投与すべきであるという理論がアメリカの心臓専門とする医者の共通意見になっていました。ところが、アメリカの国立心臓血液研究所で心筋梗塞後の患者に対する大規模調査の結果、抗不整脈薬を投与された群の方が偽薬（実際には薬効のない偽の薬）を投与さ

れた群に比べて死亡率が有意に高かったという結果が出ました。この様な結果となった理由には様々な事が考えられますが、その大きなものの一つに薬の副作用があると考えられました。つまり不整脈を防いでも副作用の悪影響の方が大きければ、薬を使った群の死亡率がより高くなってしまいう可能性をこの研究は示したのです。いずれにせよ、この調査結果をもとに、少なくとも心筋梗塞を起こした全例に予防的に抗不整脈薬を投与することはやめようという結果になりました。

この調査研究のように今までは科学的根拠もなく理論的に一番良いとされてきた治療法や薬が、長期間の予後を調査しデータを分析検討していくことで治療法や薬の使い方などが変わることがあります。人の体は薬を使ったり、手術をしたり、検査をすることで何が起るかわかりません。そのため今までのように理論に従って薬を使ったり、手術を行ったりするよりも、長期間のフォローアップ調査をした上で、確率的に一番予後の良い治療を行うべきだというEBMの考え方

はじめての矯正！



受付・坂本真由美

が必要とされていきました。今後データを通して皆さんにいろいろな論文や治療法などを紹介していく上でEBMという考え方が大変重要になってくるため、今回はEBMの基本的な考え方と歯科領域における代表的な調査研究を紹介しました。次号は「EBMと情報収集」について解説します。

8月より、受付で勤務させて頂いている坂本です。中学生の時、私は歯科衛生士である母の勧めで多くの皆様と同様に矯正治療を行いました。装置装着中の歯を動かす痛み以上に、治療に対する恐怖や不安などの精神的な負担の方が大きかった事を覚えています。ワイヤーを口にいっぱいに詰め込まれる夢は治療の3年間に何度も見ましたが、綺麗に整っていく歯を見る事はとても楽しいものでした。現在治療中の皆様も同じではないかと思えます。

あなたの体験を聞かせてください

ひるま矯正歯科で治療中、または治療終了された皆さま、治療体験を聞かせていただけませんか？矯正治療を始めた理由は？ひるま矯正歯科を選んだのはなぜ？大変だったことは？……聞き手は息子の矯正治療を考え中のライターS。『ひるまだより』とHPに掲載させていただきます。詳細はスタッフまで！

長い矯正治療が終わり装置を撤去した時は、私以上に家族が喜んでくれました。思い返すと、私の食事だけは柔らかくて食べやすいものにしてくれる母の気遣いや、「綺麗になったな！（あくまで歯並）」とさりげなく声をかけてくれる父の気遣いがありました。このような家族の気遣いがあったからこそ、私は矯正治療を最後まで続ける事が出来たのだと思います。

矯正治療を受けて、歯並びが綺麗になり嬉しかった事を思い出すと同時に、私が治療中に温かく感じた「気遣い」の出来るような受付になれるよう、矯正治療後の笑顔を多くの方が手に入れられる事を願い、応援します。これからどうぞよろしくお願ひ致します。